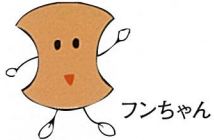


阿岐のまほろば

Vol. 43



豊栄町で、発掘調査はじめました



の み 3・4号遺跡 (豊栄町 乃美)



乃美3号遺跡完掘状況 (東から)

乃美3・4号遺跡は、^{ふくとみ}福富町との境に位置する西原山の東側裾部に張り出した低丘陵上に位置する遺跡です。瀬戸内海に流れる^{ぬた}沼田川の支流である^{わくなし}棕梨川流域の低地部分に広がる農耕地を整備する、経営体育成基盤整備事業（ほ場整備）のため、平成22年5月から9月まで発掘調査を実施しました。

事業地内では、国指定特別天然記念物オオサンショウウオ、東広島市指定天然記念物カスミサンショウウオの生息が知られる他、希少な植物も多数存在しています。また、乃美4号遺跡の東には県重要文化財「紙本墨書大般若経」が伝わる乃

^{みほんぐうはちまんじんじや}美本宮八幡神社が存在し、境内には県天然記念物「本宮八幡神社の社叢」が広がっています。これらのことから、当該地区が豊かな自然と文化財に恵まれた地域であることがわかります。

乃美3号遺跡

遺跡は、西から東へ延びる尾根の南側斜面に立地します。

北側（斜面の上側）は削平が著しく、一部では包含層が存在していませんでしたが、まとまった調査面積があり、一定の成果がありました。大まかには、礫混じりの黄灰色系の基盤土に営まれた遺構群（第2検出面＝古墳時代）と、その基盤土

の上に堆積している黒褐色土に営まれた遺構群（第1検出面＝中世）が存在し、江戸時代以降にそれらを包括して開拓したと考えられる石垣などを検出しました。

第1検出面では、直径20cm程の小穴（ピット）が多数検出されています。幾つかは柱穴と考えられ、掘立柱建物跡が数棟存在します。

第2検出面では、^{たてあなじゆうきよ} 竪穴住居跡3棟、^{どこう} 土坑14基などが検出されました。竪穴住居跡は、^{へきこう} 壁溝が廻るもの（1棟）と廻らないもの（2棟）が存在し、^{かまど} どれも竈は伴いません。土坑は、竪穴住居跡に伴う（切り合う？）ものと単独のものが存在し、古墳時代の土器がほぼ完形で出土しました。

乃美4号遺跡

遺跡は、本宮八幡神社が所在する尾根の南側斜面に立地します。現状は水田で、工事の都合上、発掘調査はA区からD区に分けて実施しました。

A区は、著しく削平されていましたが、竪穴住居跡1棟などが検出されました。

B区は、黄褐色系の基盤土に営まれた遺構群（第2検出面＝中世）と、その基盤土の上に堆積している黒褐色土に営まれた遺構群（第1検出面＝中世～近世）が存在します。第1・2検出面ともに、ピットが多数検出され、掘立柱建物跡が数棟確認されています。第1検出面から土師質土器の小皿が多量に出土していますが、第2検出面に確実に伴う遺物はあまりありませんでした。

C区は、土坑や掘立柱建物跡が検出されました。弥生時代の^{ちようぞうけつ} 貯蔵穴と考えられる土坑は著しく削平されていましたが、中世と考えられる掘立柱建物跡は比較的しっかりした柱穴を持ち、2×3間以上の規模であることがわかりました。これは、弥生時代の集落跡を、後（中世）の時代に切り土による造成が行われたためで、深い土坑の一部だけが残ったものと考えられます。

D区の南側は青灰色に変色しており、水が溜まっていた期間があったことを示しています。河川の氾濫原や低湿地などであった可能性があります。

す。

出土遺物

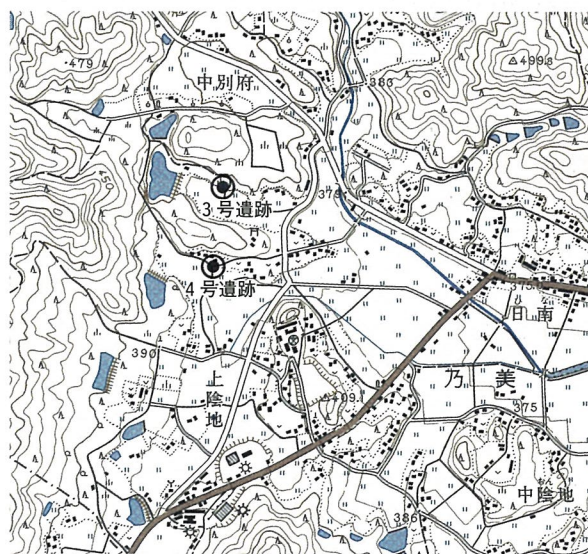
弥生土器から明治時代の陶磁器まで多様な出土遺物が出土しました。主要な遺物は、^{はじき} 土師器と中世の^{はじしつどき} 土師質土器皿（カワラケ）で、^{すえき} 須恵器（陶馬の一部など）や^{とうじき} 陶磁器（市内の焼き物である^{はら} 原村焼や小谷焼など）も出土しています。

おわりに

- ①弥生時代～中世の集落が確認されました。
- ②古墳時代の集落跡では、竪穴住居跡に壁溝が廻るものと廻らないものが確認され、土師器が出土した土坑が検出されました。
- ③中世の集落跡では、多数のピットが検出され、掘立柱建物跡が確認されました。
- ④土師器及びカワラケがまとまって出土しました。
- ⑤出土遺物の様相から、弥生時代から現代まで連続と生活が営まれていたことが確認されました。

豊栄町での本格的な発掘調査は、10数年ぶりとなりました。今回の発掘調査で、当該地域は文化財の宝庫であることが再確認されました。

乃美地区では、引き続き発掘調査が行われる予定です。随時調査成果を発表していきます。



乃美3・4号遺跡位置図（1：25,000）

河内町で縄文土器が出土しました！

さんぎょ こうち ちやうなかこうち
山居遺跡 (河内町 中河内)



出土した縄文土器

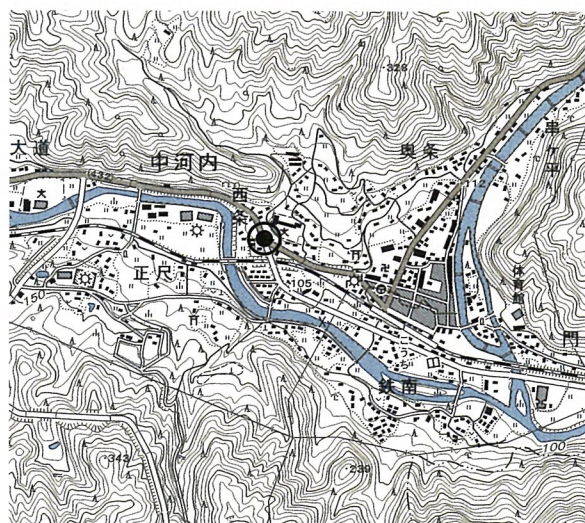
山居遺跡は、国道432号線の交通安全施設等整備事業に伴って、平成23年11月から12月まで発掘調査を実施しました。遺跡は、巨石が露呈する急峻な山の裾部に、わずかに広がる緩やかな斜面に立地しています。

国道を挟んで1区と2区の調査区に分けて調査を実施しました。1区からは、ピット列・溝状遺構・土坑などを検出し、中近世～近代の陶磁器と土師質土器、須恵器などが出土しました。2区からは性格不明(竪穴住居状)土坑を検出しました。また、2区を覆っていた遺物包含層(黒褐色土)から多数の縄文土器に混じり須恵器と中近世の土師質土器などが若干出土しました。

今回出土した縄文土器は、有文土器(縄文を有するものと縄文を持たない沈線文を中心とするもの)と無文土器(器面調整痕)に分けられます。残念ながら、資料が小破片のため器形などの詳細は

不明ですが、多くは縄文時代後期のものと考えられます。

平成2年度の発掘調査でも、土坑などから縄文土器が出土しています。この地域には、縄文時代から人々が生活していたことが再確認できました。



山居遺跡位置図 (1:25,000)

よみがえ なつ せいかつ いぶき
甦る懐かしき生活の息吹

こうち ちょうみんぞく しりょうせいり こうち ちょうやま
河内町 民俗資料整理 (河内町 宇山)



昭和20～30年代の映画スター団扇^{うちわ}

財団法人東広島市教育文化振興事業団では昨年6月から東広島市教育委員会文化課からの委託で旧河内町民俗資料館の保管資料を宇山地域センター2階(旧宇山小学校)において再整理し、目録作成を行いました。終了後の平成23年10月から同所に市内5箇所目の民俗資料展示施設として「河内町民俗資料展示室」を開設して整理した民俗資料を公開しています。

旧河内町内の農業、林業、漁業、畜産業、製糸業、製茶にかかわる生産用具を約200点展示しており、農村を中心とした懐かしい日本の生活の息吹を感じることが出来ます。

写真は数多くの資料の中でも異色の存在といえる往年の日本映画のスターたちをデザインした団扇^{うちわ}です。今や貴重な存在といえるでしょう。

入室は無料です。お気軽にお立ち寄りください。

入室時間は9:00から15:30(年末年始は休み)

見学については東広島市宇山地域センターまで

(電話082-438-0449)

資料・展示に関するお問い合わせは

東広島市教育委員会 生涯学習部 文化課まで

(電話082-420-0977)



(財)東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol. 43

発行日 2012(平成24)年3月23日

発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団/文化財センター

編集 東広島市河内町中河内651-7

TEL 082-420-7210 〒739-2201

<http://akinomahoroba.or.jp>

印刷 大東印刷株式会社

東広島市西条下見五丁目8-17